

百年前の未来予測
めあて

よこた じゅんや
横田 順彌

筆者が読み手に伝えたいことを読み取り、
未来を考えるときの注意点をつかもう。

科学技術の進歩によって

- 11 段落
- ・ 電話やカラーテレビが当たり前
 - ・ インターネットの登場
 - ・ 自動車や鉄道のスピードが向上
 - ・ 医学の進歩
 - ・ 食生活の向上

私たちの生活は、百年前の未来予測以上に便利になった。

しかし

- 12 段落
- ・ 多くのエネルギーの消費
 - 「地球温暖化」の原因の一つ
 - ・ 交通事故の増加
 - ・ 乗り物の騒音
 - 深刻な問題

科学技術の進歩によって得られた結果が、すべてよかったとは言いきれない。

筆者が伝えたいこと

未来について考えるときには、このようなことも、
しっかり頭の中に入れておかななくてはなりません。

よいことばかりでなく、
問題点も考える必要がある。

4 / 11 時間目 指導略案 使用するワークシート…④

活動のねらい

科学技術の進歩がもたらした結果に対する筆者の考えや未来を考える上での留意点について読み取らせる。

1 めあてを確認し、学習の見通しをもつ。

2 十段落から十三段落までを読み、筆者が言いたいことをまとめる。

- ① 各段落の「事実や事例」と「筆者の考え」に線を引きながら読ませる。
- ② ワークシートにまとめる。

評価 事実や事例と筆者の考えを区別しながら読み取ることができる。

事実と意見の区別
・ 文末表現に注意させる。
・ 事実（具体）から導き出した答えの部分を見付けさせる。

3 段落の関係図を作りながら、筆者が一番伝えたいことを考える。

- ① ワークシートを基に、段落に書かれていることを発表する。

- 十一段落の事実・事例及び筆者の考え
- 十二段落の事実・事例及び筆者の考え

② 「しかし」の接続語を意識させるようにし、十一段落と十二段落のどちらを筆者は伝えたいのか考えさせる。（個人→グループ→全体）

【発問】筆者が、読み手に強く伝えたいのは、十一段落と十二段落のどちらだと思いますか。

4 未来について考えるときの筆者の意見を読み、自分たちが未来予測をする上での注意点について確認する。

- ① このようなことが何を指すのか確認する。
- ② 自分たちが未来予測をする上で注意することを確認する。

評価 段落の関係から筆者の伝えたいことの軽重を考え、自分たちの未来予測に生かそうとすることができる。

5 学習を振り返り、自己評価をする。